

季節の変化を楽しむ日本人の美意識

風そよぐ ならの小川の夕暮れは みそぎぞ夏の しるしなりける
従二位家隆

〈現代訳〉風がそよそよと檜の葉にふいている。

この、ならの小川の夕暮れは涼しくて秋のようですが、「夏越しのみそぎ」の行事が、今がまだ夏であることの証拠です。

「ならの小川」は、京都・上賀茂神社に流れる御手洗川のこと、川名と「檜」の掛詞になっています。毎年、この小川で「みそぎ」が行われています。「みそぎ」とは、6月と12月に行われる、川の水で身を清め、罪やけがれ、疫病を払う行事です。この歌で詠まれているのは、6月30日の「夏越しのみそぎ（六月祓）」です。当時の暦では、7月からが「秋」でしたので、6月30日は夏の最後の日です。涼しいそよ風に秋の到来を感じるとともに、去り行く夏を惜しむ、情緒豊かな和歌です。

現在は、まだまだこれからが夏本番です！みなさんが今、直面している困難に負けず、充実した心熱くなるような夏を過ごされますように祈って！

小野田高等学校小倉百人一首かるた部 顧問 青池 のぞみ